［いすみ市］　太東地区社会福祉協議会



# 人と人との「つながり」や「ふれあい」それが活動の要となる

高齢者ふれあい会食会。曲に合わせて楽しく体操

いすみ市の太東地区社会福祉協議会（以下、太東地区社協）では、人と人とのつながりを大切にしながら活動を進めています。高齢者同士の交流、そして異世代交流を積極的に行うことで、地域の住民同士が見守り合い、一緒に笑いあえる関係を築き上げていく――そんな取り組みを紹介します。

## 高齢者や子どもたちを対象に活動を推進

いすみ市は平成17年に旧夷隅町、旧大原町、旧岬町の３町が合併して誕生。太東地区は旧岬町に位置しており、人口は4,640人です（平成26年７月１日現在）。

太東地区社協のメンバーは自治会長、民生委員・児童委員、青少年相談員、老人クラブ、ボランティア等で構成されており、様々な立場のメンバーが協力し合いながら、小・中学校の子どもたちや高齢者を対象として着実に活動を推進しています。



白熱した豆運びゲーム

## 世代を越えたふれあいの場「高齢者ふれあい会食会」

毎年恒例の「高齢者ふれあい会食会」は、「高齢者」と銘打ってはいるものの、異世代交流の場ともなっています。太東地区社協が設立した平成10年４月からスタートし、これまで25回以上も続いてきている事業です。継続の秘訣はずばり「面白いから！」とのこと。

平成26年度は11月11日に岬ふれあい会館で開催。集まったのは70歳以上の住民60人、太東小学校３年生34人、ボランティア団体、各サークルのメンバーです。

会食会は、児童たちが日頃の練習の成果を発揮する発表の場ともなっています。歌や楽器、劇に縄跳びなど、様々な発表が行われるたびに会場が拍手に包まれました。紙人形劇で戦時中の物語が語られると、思わず涙ぐむ参加者もおり、皆真剣に児童たちの発表に見入っている姿が印象的でした。

ボランティアグループによるレクリエーションでは、参加者全員が「きよしのズンドコ節」に合わせた体操で全身をほぐした後、豆運びゲームで交流を深めました。豆運びゲームは、小さい豆を箸で隣の人の皿に移し、グループごとに速さを競うもの。どこか緊張気味だった子どもたちも、皿から転がり落ちてしまった豆を見て、高齢者と顔を見合わせて笑い合っていました。

高齢者が箸の持ち方を直してあげたり、豆の種類を教えてあげたりする光景も見られました。

昼食時に振る舞われたお弁当には、つやつやのご飯やほくほくのサツマイモが。これは、福祉教育による活動の中で地区社協メンバーが小学生・中学生とともに収穫したもの。美味しいお弁当に参加者の話も弾みます。

児童が学校に戻った後の午後の部では、７つのサークルが舞踊やフラダンスを披露するミニ演芸会。老人クラブ会長から誘われて初めて参加したという男性は、「こんなに楽しいなら来年もまた参加したいな」と笑顔を見せていました。





児童の発表を見て楽しむ参加者

## 小学校、中学校、高校と連携して福祉教育活動を推進

太東地区社協は平成24年度から３年間、千葉県社協から「福祉教育推進指定団体」に指定され、同じく指定校となった近隣の長者小学校、岬中学校、岬高校と協力し合い、さまざまな活動を行ってきました。

指定２年目からは、地区社協役員の指導の下、太東小学校５年生と岬中学校２年生が稲づくり体験教室に参加。田んぼに入るのを戸惑いがちだった子どもたちも、実際に田植えを経験すると「もっと植えたい！」と目を輝かせたとのこと。収穫したお米は岬高校や太東小学校にも届けられ、調理の授業で使ってもらったほか、一部をもち米に替えて市社協のデイサービスや児童館にも提供しています。

「花いっぱい活動」にも取り組み、岬中学校の生徒と地区社協役員で植えた花を児童館や市役所、高齢者福祉施設などに配り、地域の美化活動になればと精力的に活動しました。

指定３年目から始めた野菜づくり体験教室では、岬高校園芸科からナス、ピーマン、ミニトマト、カボチャの苗を買い、それらと併せて地区社協役員が提供したサツマイモをみんなで畑に植え、10月に収穫を行いました。

自然とふれあいながら活動をともに進めることで、地区社協メンバーと子どもたちとの仲も大いに深まりました。





稲づくりや花植えなど、子どもたちと協力して様々な活動を行いました

## つながりを大切に日々活動を進めていく

地区社協会長の高地和生さんは、これまでの取り組みに手ごたえを感じています。「様々な活動の中で顔見知りの人が増えていくと、地区の防犯にもつながるんです。福祉教育については平成26年度で指定が終了しますが、折角これまで関わることのなかった学校や子どもたちとの関わりができたので、今後も可能な限り活動を続けていきたいですね」とのことです。

活動の中から生まれる人と人とのつながりを大切に、一歩一歩着実に活動を推進している太東地区社協。そのふれあいの輪は、今後も確実に広がっていくことでしょう。

いすみ市社会福祉協議会

# 市社協と地区社協が連携して地域が抱える課題を解決する



太東地区社協のメンバー（一列目の左から３人目が高地和生さん）と、いすみ市社協の磯野孝夫さん（最後列右）

いすみ市社会福祉協議会（以下、いすみ市社協）では、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりの実現を目指しています。いすみ市の高齢化率は35%を超え、3人に1人が65 歳以上。一人暮らしの高齢者もしくは高齢者だけの世帯が増えています。さらに核家族化の進行、近隣とのつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しています。

こんな現状だからこそ住民の助け合いが欠かせないと、いすみ市社協主査の磯野孝夫さんは考えます。「まずは住民が気楽に立ち寄り、多彩なプログラムやお喋りが楽しめるサロン事業を展開したいですね。誰もがほっとできる、そこを訪れたら元気になって帰ってもらえるような“寄り合い所”的な空間作りを提供したいです」とのこと。

また、市内に12ある各地区社協の活発な活動をバックアップするのも市社協の重要な役割であり、「交通の不便、害獣問題、新しく転入された方と古くからいる住民とのトラブルなど、地域が抱える問題はさまざまです。市社協と地区社協が連携し合い、問題を一つ一つ解決していきたいです」と意気込みを語ってくれました。

※いすみ市人口：40,809人　65歳以上人口：14,376人　高齢化率：35.2%（平成26年4月現在）